

浅

葱

の

風

音

篠原鳥童



私に  
この箱館から  
落ち延びろ  
—と？

土方先生

いやです!!

そうだ  
おまえは  
おれたちとちがつて  
将来をみる  
時代の人間だ



鉄之助  
此は  
隊命ぞ

者の背く  
者は

新撰組法度により

斬る！

矢竹の音





わかりました  
先生

しかし  
ひとつだけ  
うらみごとを  
いわせてください

その命によって  
私は

沖田先生との  
約束を反古に  
しなくてはなりません

総司との？



はい  
土方先生からの  
お届けものに  
あがつた「植基」で

市村さん

もういっしょに  
いけない  
私のかわりに

どこまでも  
ひきかた  
土方さんを  
よろしく

総司

そーいやあ

蝦夷には  
矢竹がねえなあ

※沖田が総司療養の  
ために身をせていた  
植木屋



総司<sup>そうじ</sup>

あの時<sup>とき</sup>やあ  
どうせ誰<sup>たれ</sup>も  
長<sup>なが</sup>くは  
生き<sup>いき</sup>ねえと  
いう時代<sup>いだい</sup>  
だったな

おう

そこ<sup>そこ</sup>にいたか  
総司<sup>そうじ</sup>

土方<sup>ひじかた</sup>さん

どうした  
子供<sup>こども</sup>等<sup>ら</sup>と  
遊<sup>あそ</sup>ばねえのか？

あ  
いやあ  
ちよつと

春<sup>はる</sup>とはいっても  
まだ寒<sup>さむ</sup>いです  
風邪<sup>かぜ</sup>気味<sup>きみ</sup>なので  
うつすといけませんし

そうして  
じっとしてゐるほうが  
寒かろう

どうしたんです  
鬼の土方おに ひなたが

ま  
歳さんとしらしい  
ですけど

山南やまなんの件——

さすがに  
つかつかたか？  
すまねえな

——いえ

※試験館からの仲間たちが脱走した度により切腹  
沖田が介錯をした

あのひととはもう  
疲れてしまつて

休みたかつたん  
です

少しでも  
武士として  
佳く送りだすのが  
友のつとめです

——ああ

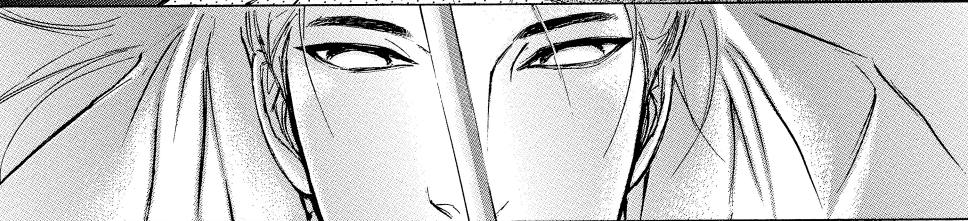
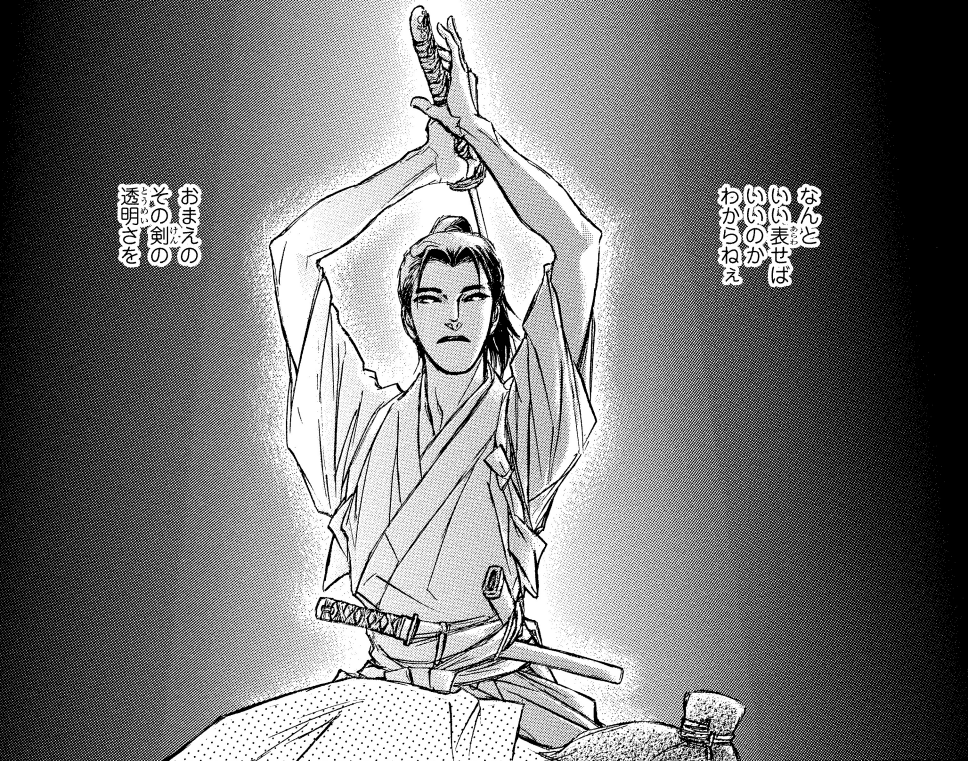
佳い切腹  
介錯かいしやく  
だった

そつた



なんと  
いい表せは  
いののか  
わからねえ

おまえの  
その剣の  
透明さを



おまえには昔から  
才があつた

たか  
ここのところ  
おまえの剣は  
まるで自然だ

清流のように

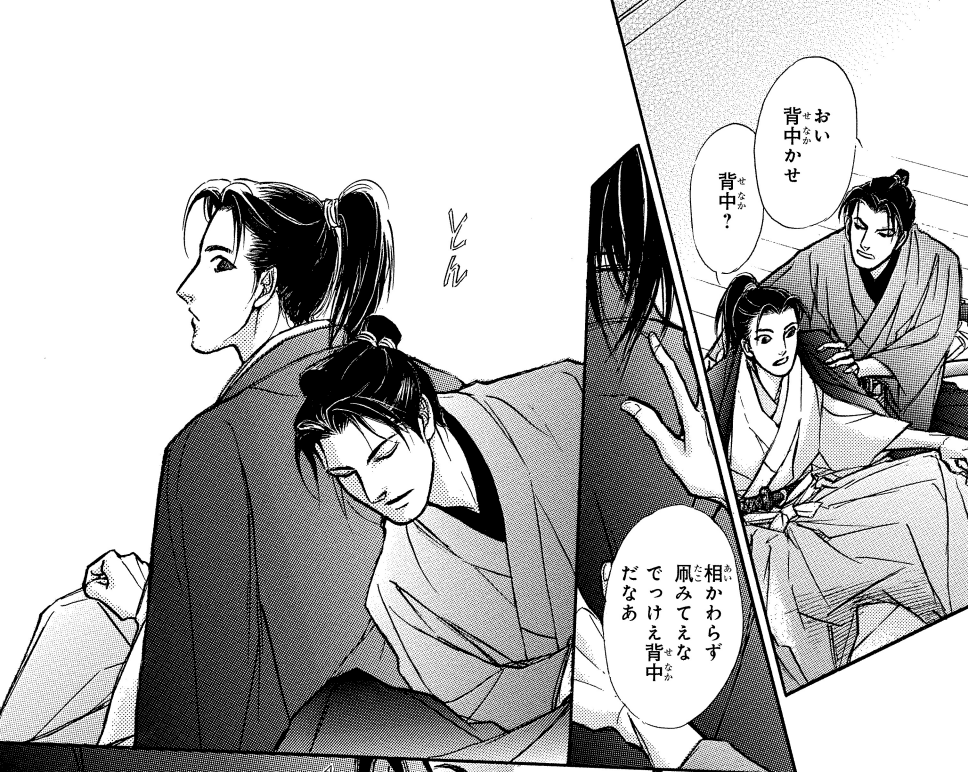
人を斬れば  
斬るほど

朱に染まる  
どころか

透明になつていく

土方さん？





ああ  
覚えてるか

おれが日野の家に  
植えた矢竹の話

ああ  
武士になったとき  
役立てるんだって

そのころは武士になったとき  
まさか京にいるとは思  
わなかったんでしょうねえ

いまでも  
武士になれたのやら  
どうやら――

え？

いや

いつも

武州のからつ風に  
矢竹の鳴る音を  
きいていた

ひゅう

さあ

ひゅう

ひゅう

ってな

※武州は山州日野出身  
矢竹は竹の一種、山竹ともいわれるが、  
武州の山竹は、矢竹の一種とされている。



矢竹の  
音だ

土方さん

私の  
胸の音を

あれは  
かえり血では  
なかった

池田屋の  
あのと  
総司  
おまえの

おまえの剣に  
まるでまよいが  
なくなったのは

おまえが  
己れの内に  
死を  
しているからだ